

## 出版流通と資料選択



水戸市立見和図書館 西川啓子  
(日本図書館協会 認定司書 1184号)

### はじめに

図書館員が出版流通について学ぶ意味は？

- ・ 図書館にあるのは(おもに) **本**や雑誌などの出版物
- ・ 図書館は、**本と読む人(読者)**をつなぐ場所
- ・ 図書館は、**住民の「知る権利」を保証する**役割を担う

図書館で働くうえで、

- ・ どのように読者のもとに本が届けられているか
  - ・ 出版界のしくみや状況
- ☞ 把握して業務にあたることは、とても大切なこと



### 「図書館員の倫理綱領」

(前文)

この倫理綱領は、「図書館の自由に関する宣言」によって示された図書館の社会的責任を自覚し、自らの職責を遂行していくための**図書館員としての自律的規範**である。

この綱領でいう図書館員とは、図書館に働くすべての職員のことである。綱領の各条項の具体化に当たっては、図書館長の理解とすぐれた指導力が不可欠である。

この綱領は、すべての図書館員が館種、館内の地位、職種及び司書資格の有無にかかわらず、綱領を通して図書館の役割を理解し、綱領実現への努力に積極的に参加することを期待している。さらに、図書館に働くボランティアや図書館同種施設に働く人びと、地域文庫にかかわる人びと等による理解をも望んでいる。

### 「図書館員の倫理綱領」

(文化創造への寄与)

**第12 図書館員は、読者の立場に立って出版文化の発展に寄与するようつとめる。**

出版の自由は、単に資料・情報の送り手の自由を意味するのではなく、**より根本的に受け手の知る自由**に根ざしている。この意味で図書館は、読者の立場に立って、**出版物の生産・流通の問題に積極的に対処する社会的役割と責任を持つ**。また図書館員は、「図書館の自由に関する宣言」の堅持が、**出版・新聞放送等の分野における表現の自由を守る活動と深い関係を持つこと**を自覚し、常に読者の立場に立ってこれら関連分野との協力につとめるべきである。

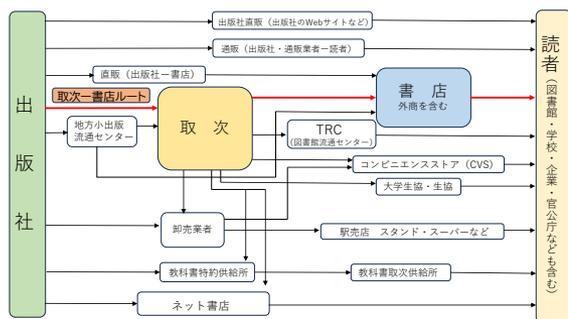
# 第1部 出版流通について



## 日本の出版流通の特徴

- (1)「取次-書店ルート」  
出版社→取次→書店ルートが主要な流通ルート
- (2)取次会社の存在  
出版社と書店の間を取り持ち、物流機能を持つ業者
- (3)再販制度・委託制度  
日本の出版流通システムを形作ってきた制度

## 出版物の流通ルート



## 各流通ルートの割合

- ①「取次-書店ルート」: 57.2% (前年比95.2%)  
・出版物のメインルート。現在でも販売シェアの約6割を占める。
- ②「インターネット」: 21.2% (前年比96.5%)  
・インターネット上の書店を経由したルート。(紙媒体のみ)
- ③「出版社直販ルート」: 13.6% (前年比99.6%)  
・出版社と書店が直接取引するルート(近年増加傾向にある)。  
・出版社が直接読者に本を販売するケース。個人や官庁、学校等、組織向けなどもあり
- ④「その他取次経由」: 8.0% (前年比94.4%)  
・CVS(コンビニエンスストア)、大学生協や生協、駅、スーパー・ドラッグストア等のスタンドなどへの、雑誌や一部書籍などの販売ルート。  
(※生協は再販制度の適用除外対象になっている)

日販 スタアソリューションチーム『出版物販売額の実態2025』より

## 取次会社①

- ・ 出版社と書店の中間にある流通業者で、他産業では**問屋**にあたる。
- ・ 出版物を全国の書店に送品する運輸機能、書店や読者に出版情報を提供する機能の他、集金、金融など多面的な機能を有する。
- ・ トーハン、日本出版販売(日販)、楽天ブックスネットワーク、日教販、中央社等がある。

(『出版社の日常用語集 第5版』より)

取次(販売会社)数: 18社

(日本出版取次協会加盟社: 2025年4月現在)

## 取次会社②

さまざまな機能・・・**大きな力を持つ**

- ・ 出版社からの仕入れ
- ・ 書店への適正な配本
- ・ 代金の回収、支払い
- ・ 書店から出版社への返品
- ・ 情報の提供

※見計らい配本:  
地域性や客層、立地や規模などを考慮して、自動的に書店に配本するシステム。基本的に書店側の考えは入っていない。



## 再販制度・委託制度①

再販制度とは・・・「**再販売価格維持制度**」

- ・ 出版社が決定した販売価格(=定価)を、取次・書店に守ってもらう制度。
  - 「**定価販売**」により、全国一律同一価格 → 出版物に対する地域格差がない
  - 出版社の自由な出版活動が守られる → 多種多様な出版物の供給が可能
- ・ 本来、価格の拘束は独占禁止法で禁止されているが、**書籍・雑誌・新聞・音楽CD・音楽テープ・音楽レコードの6品目**については、文化教育の普及のためとして、例外的に独占禁止法の**適用除外措置**とされている。

※電子書籍は「再販対象外」:「情報」として流通しているため

## 再販制度・委託制度②

**再販制度**についての存続論・撤廃論

これまでに何度か、存続/撤廃についての議論がなされてきた

- 【存続派】
- 出版物の多様性のため(内容が偏ることを防ぐ)
  - 出版社・書店の倒産を防ぐ
  - 購入の利便性、価格の同一性

- 【撤廃派】
- 買切り品でも値引き販売ができない
  - 自由な価格競争、商取引が育たない

→議論は続いているが、「**当面の間は存続**」ということに落ち着いている

※公正取引委員会は価格の自由化(再販制度の撤廃)を求める  
→1980年「**部分再販・時限再販**」制度の導入

## 再販制度・委託制度③

委託制度とは・・・「書店が出版社の代わりに本を販売すること」

- ・書店は「一定期間の売れ残りを出版社に返品できる」制度
- ・返品率は、書籍:33.2% 雑誌:43.8% (ともに2024年)  
【出版指標年報2025】より

### 委託期間

	出版社ー取次会社	取次会社ー書店
書籍（新刊）	6か月	3か月半 (105日)
雑誌（月刊誌）	3か月	2か月 (60日)
雑誌（週刊誌）	2か月	45日間

【出版営業入門 第4版】より

## 出版市場の基本的な統計

①出版社数: **2,908社** (「経済構造実態調査 2020年」より)

②取次(販売会社)数: **18社** (日本出版取次協会加盟社:2025年4月現在)

③書店数: **10,417店** ※「坪あり店舗数」:**7,673店**  
(「JPO 書店マスタ管理センター 2025年4月作成」より)



## 2024年 出版市場の主な統計

- ①書籍新刊点数: **65,322点**(+417点 100.6%)  
※2015年:76,445点
- ②書籍推定発行部数: **23,803万冊** (※初版の部数)
- ③初版刷り部数(推定): **約3,643冊** (②÷①)
- ④新刊書籍平均単価: **1,332円** (+27円 102.1%)
- ⑤雑誌出版点数: **2,341点** (▲48点 98.0%)
- ⑥雑誌平均単価: **693円** (+32円 104.8%)
- ⑦コミック出版点数: **15,081点** (+320 102.2%)  
(書籍扱い:5,582点、雑誌扱い:9,499点)

【出版指標年報 2025】より

## 書籍新刊点数と販売額の推移

年	書籍新刊点数(点)	推定販売金額(億円)	
		図書	雑誌
2014	76,465	7,544	8,520
2015	76,445	7,419	7,801
2016	75,039	7,370	7,339
2017	73,057	7,152	6,548
2018	71,661	6,991	5,930
2019	71,903	6,723	5,637
2020	68,608	6,661	5,576
2021	69,052	6,804	5,276
2022	66,885	6,497	4,795
2023	64,905	6,194	4,418
2024	65,322	5,937	4,119

【出版指標年報2025】より

## 電子書籍の販売額①

- ・2024年の出版販売額(紙+電子)は1兆5,716億円
- ・電子出版の市場規模は年間で5,660億円

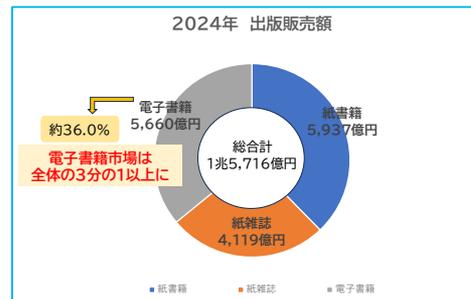
紙書籍・電子書籍販売額の推移

単位:億円

年		2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
紙	書籍	7,370	7,152	6,991	6,723	6,661	6,804	6,497	6,194	5,937
	雑誌	7,339	6,548	5,930	5,637	5,576	5,276	4,795	4,418	4,119
	紙合計	14,709	13,700	12,921	12,360	12,237	12,080	11,292	10,612	10,056
電子	電子コミック	1,491	1,747	2,002	2,593	3,420	4,114	4,479	4,830	5,122
	電子書籍	258	290	321	349	401	449	446	440	452
	電子雑誌	160	178	156	130	110	99	88	81	86
	電子合計	1,909	2,215	2,479	3,072	3,931	4,662	5,013	5,351	5,660

『出版指標年報2025』より

## 電子書籍の販売額②



『出版指標年報2025』より

## 電子コミック市場規模の拡大①

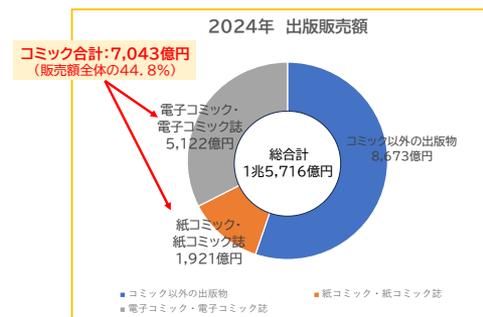
コミック販売額の推移

単位:億円, %

年		2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	前年比
紙版	コミックス	1,947	1,666	1,588	1,665	2,079	2,087	1,754	1,610	1,472	91.4
	コミック誌	1,016	917	824	722	627	558	537	497	449	90.3
	小計	2,963	2,583	2,412	2,837	2,706	2,645	2,291	2,107	1,921	91.2
	電子コミック (電子コミック誌含む)	1,491	1,747	2,002	2,593	3,420	4,114	4,479	4,830	5,122	106.0
	合計	4,454	4,330	4,414	4,980	6,126	6,759	6,770	6,937	7,043	101.5

『季刊出版指標 2025年春号』より

## 電子コミック市場規模の拡大②



『季刊出版指標 2025年春号』より作成

## 書店の減少

年	総店舗数	坪あり店舗数
2014	14,658	11,147
2015	14,468	10,809
2016	14,098	10,488
2017	13,576	10,116
2018	13,085	9,686
2019	12,653	9,285
2020	12,343	9,082
2021	11,952	8,806
2022	11,495	8,478
2023	10,918	8,051
2024	<b>10,417</b>	<b>7,673</b>

『出版指標年報2025』より

## ネット経由／リアル書店経由購買額比較

年度	ネット経由			リアル書店経由			合計	
	購買額 (億円)	前年比 (%)	構成比 (%)	購買額 (億円)	前年比 (%)	構成比 (%)	購買額 (億円)	前年比 (%)
2020	7,380	128.5	42.0	10,175	98.5	58.0	17,555	109.2
2021	8,503	115.2	46.2	9,888	97.2	53.8	18,391	104.8
2022	9,542	112.2	50.3	9,440	95.5	49.7	18,982	103.2
2023	9,986	104.7	53.1	8,834	93.6	46.9	18,820	99.1
2024	10,093	101.1	54.6	8,400	95.1	45.4	18,493	98.3

日販 ストアソリューションチーム『出版物販売額の実態2023, 2024, 2025』より

## 数字から見る出版市場・書店業界の現状①

- 紙の書籍・雑誌の新刊点数・発行部数・販売額の減少  
→とくに雑誌の落ち込みが顕著(銘柄点数・発行部数も大幅に減少)
- コミックが日本の出版界をけん引している  
→とくに電子コミック市場の成長が大きい
- 書店が大幅に減少…書店が1軒もない自治体の増加  
(全国の自治体の27.9%、24の市で無書店状態)  
→原因は「インターネットでの購入が増えたから」 ※JPIC調査 2024年8月時点

本当にそれだけ？

## 数字から見る出版市場・書店業界の現状②

### ●再販制度・委託制度の弊害

- ・ 大型書店にかたよる新刊配本
- ・ 店の客層や売れ行きに合わない本が届く(冊数も調整できない)
- ・ 自分で選書した本ではないので売り切る気力がわかない
- ・ 「もう少し安くすれば売れるかも」と思っても値引きできない
- ・ 出版社は返品を見込んで減数して出荷 ⇔ 書店は減数を見込んで多めに注文  
→悪循環を生む

出版業界の制度の限界？

- 高い返品率
  - ・ 物価の上昇による出版のコストや運送費の高騰(出版社や取次が負担)

## 出版業界の新しい動き【書店】

### ○「独立系書店」の増加

①「独立系書店」とは…大手チェーンに属さない個人書店(小規模経営)

- ・ 仕入れ：大手取次ではなく二次卸や古書なども扱う
- ・ 品揃え：分野やテーマをしぼった店が多い

②「独立系書店」のタイプ

- ・ 「テーマ特化型」：絵本、海外文学、旅やアート、特定の動物に関する本に特化
- ・ 「複合型／兼業型」：カフェやバーを併設／本業の店舗で関連する本を販売
- ・ 「シェア型(棚貸し)」：個人や法人が書店の棚を借り、好きな本や雑貨を売る

『季刊出版指標 2025年秋号』特集より

## 出版業界の新しい動き【取次】

### ○少額取次サービス

大手取次(トーハン、日販、楽天ブックスネットワーク)と契約して口座をもつには高額な保証金・初期費用が必要  
→書店が新規開店するハードルのひとつになっている

※特定の分野や小さな出版社に特化した中小取次もある



大手取次も少額取次サービスに乗り出し、小型書店の開業を後押しする試み

- ・ 「HONYAL(ホンヤル)」：トーハンによる(2024年10月から)
- ・ 「Foyer(ホワイエ)」：楽天ブックスネットワーク(2017年1月から)

## 書店の減少への危機感の高まり①

### ○自由民主党「街の本屋さんを元気にして、日本の文化を守る議員連盟」

(通称:「書店議連」、2017年3月発足)  
→「第一次提言」を政府へ提出(2023年4月)

○内閣府「経済財政運営と改革の基本方針2024」(骨太方針2024)を公表(2024年6月)

→「文字・活字文化の振興(書店と図書館等との連携促進及び読書バリアフリーの推進を含む。)や書店の活性化を図る」ことを盛り込む

○文部科学省『図書館・書店等連携実践事例集』の公表(2024年6月)

→図書館と書店等との連携を促進するため、ホームページ上で発表

## 書店の減少への危機感の高まり②

### ○経済産業省内「書店振興プロジェクトチーム」(2024年3月)

『関係者から指摘された書店活性化のための課題(案)』(2024年10月)  
→パブリックコメントを募集



「関係者から指摘された書店活性化のための課題」(2025年1月)

### 「書店活性化プラン」(2025年1月)

「書店経営者向け支援施策活用ガイド」(2024年10月)を更新

→「書店特有の課題」として29の課題を挙げる

- ・ 読書人口の減少や書店の魅力向上に関する課題
- ・ 地域における書店と図書館・自治体との連携の在り方
- ・ 業界慣行における課題
- ・ 経営における効率化・省力化に関する課題
- ・ 新規開店やキャッシュレス決済に関する課題

### 書店の減少への危機感の高まり③

○JPIC(出版文化産業振興財団)・日本図書館協会・文部科学省  
総合教育政策局 「書店・図書館関係者における対話の場」  
(2023年10月～2024年3月にかけて4回開催)

→ 「書店・図書館等の連携による読書活動の推進について」として、  
対話のまとめを2024年4月に公表

- ①図書館による新刊書籍市場への影響についての認識
- ②図書館の資料収集に関するガイドラインの策定
- ③図書館と地元書店の取引における適正価格
- ④読者育成のための連携促進

### 書店の減少への危機感の高まり④

○「本の未来と読者を考える書店・図書館等による連携協議会」  
(2024年8月～)

→4つのプロジェクトを設ける

- ①相互に望ましい実践事例の収集と普及・実践、それに必要な予算化の促進
- ②書店と図書館とのシステム連携
- ③書店での図書館資料の受け取り・返却、共同イベント開催などの運営連携
- ④「図書館本大賞」(仮称)の創設

→ 「本の甲子園」(発起人:今村翔吾氏) <https://www.honno-koshien.com/>

「書店と図書館がつなぐ未来の読者」(文部科学省からの受託事業)  
書店と図書館の合同研修会や、各地で記念講演会の開催を行う

### 書店と図書館の連携

#### ○「書店在庫情報プロジェクト」

→ 全国の書店在庫情報を統合することで、近隣で購入可能な店舗を簡単に探せるサービスの提供を目指すプロジェクト

- ・出版文化産業振興財団(JPIC)、カーリル、版元ドットコムが共催し、2024年6月から実証実験開始
- ・図書館のOPACとの連携も検討…県立長野図書館(「信州ブックサーチ」)では2024年7月から実証実験開始

#### ○書店での市立図書館書籍の受渡しサービス

→ 予約した市立図書館の本の受け取りや返却、リクエスト用紙からの予約ができるサービスを地元書店で可能にした

- ・東京都の町田市立図書館と、地元書店との連携事業(2023年5月開始)

→ 「関係者間の相互理解を積み上げ、協力できることから始める」

## 第2部 資料選択について



## 資料選択とは①

「不特定多数の利用者を想定し、一定の**蔵書構成**を実現するために収集すべき個別の資料を選択すること。**選書**ともいう。または、蔵書の中から特定の利用者のために**適書**を選択すること。

すなわち、**現存蔵書の充実度、利用頻度、利用者ニーズを考慮して、個々の資料を図書館に受け入れるかどうかを決定する作業やその過程を指す。**」

『図書館情報学用語辞典 第5版』（「資料選択」の項目より抜粋）

## 資料選択とは②

「資料選択は、**収集方針**や年度ごとの重点計画に基づいて行われ、**選択基準**に従って、個々の資料タイプが図書館の目的に適合するか、資料の有用性と費用対効果はどうか、利用者要求やニーズを充足させるか、資料収集の緊急性と優先順位は適正であるかどうかなどを判断して行われる。」

『図書館情報学用語辞典 第5版』（「資料選択」の項目より抜粋）

## さまざまな「選書」

①購入(収集)するための選書

②**展示**するための選書

③**除架**や**除籍**をするための選書

※除架…開架書架から閉架書庫に移動させること  
(除籍のために書架から本を抜くことも含まれる)

※除籍…図書館の蔵書から除く(消す)こと



## 蔵書構成とは①

「図書館蔵書が**図書館のサービス目的**を実現する構造となるように、資料を選択、収集して、計画的組織的に蔵書を形成、維持、発展させていく意図的なプロセス。」

「**収集方針**の決定と調整、ニーズ調査、利用(者)調査、蔵書評価、資源共有計画、蔵書維持管理、除籍などの諸活動が含まれる。」

『図書館情報学用語辞典 第5版』（「蔵書構成」の項目より抜粋）

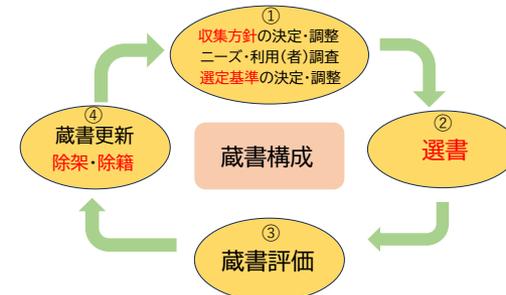
## 蔵書構成とは②

「図書館蔵書は固定した資料群ではなく、新しく刊行された資料を追加したり、過去の資料を選及収集したり、使われなくなった資料を外したりするなど、**動的な資料群**である。」

「そのため、**蔵書構成**のプロセスは、蔵書評価による資料の更新、除架、除籍、保存など、蔵書の再構築作業を含む蔵書の**系統的な発展活動**である。」

『図書館情報用語辞典 第5版』（「蔵書構成」の項目より抜粋）

## 蔵書構成のサイクル



## 「収集方針」と「選定基準」①

### ①収集方針とは・・・「資料収集にあたっての**基本方針**」

→どのような蔵書構成を実現していくかを示し、それにより目指すべき図書館サービスを達成させる

- 「図書館基本計画」などで確認できる
  - ・どのような資料を重点的に収集するか
  - ・収集することにより、どのようなサービスを目指しているか

### ○自治体の**重点課題**を意識して蔵書構成を考える必要

→行政に**図書館の重要性**を理解してもらうことは大切なこと

- ・予算の獲得、予算執行の方法、人材の確保などに影響することも

## 「収集方針」と「選定基準」②

### ②選定基準・・・「資料収集にあたっての**実務的な基準**」

→予算上の制約や施設の状況により、優先順位や制約があるときの拠りどころとして必要になる

- 各図書館の実情などにより、細かく決められている
  - ・地区館・分館などがある場合、どのように分担するか（分類や複本など）
  - ・1冊あたりの購入額の限度（参考資料以外）
  - ・しかけ絵本など特定の装丁の購入範囲
  - ・コミック、学習参考書、資格試験問題集などの購入の有無・・・ など

### →共有されていますか？

個人の好みや思い付き、担当が変わった時に、わからなくなるなどがないように

## 「図書館員の倫理綱領」

(資料に関する責任)

第4 図書館員は図書館の自由を守り、資料の収集、保存および提供につとめる。

図書館員は、専門的知識と的確な判断とに基づいて資料を収集し、組織し、保存し、積極的に提供する。そのためには、資料の収集・提供の自由を侵すいかなる圧力・検閲をも受け入れてはならない、**個人的な関心や好み**による資料の収集・提供をしてはならない。図書館員は、**私的報酬や個人的利益**を求めて、資料の収集・提供を行ってはならない。

→ 何のために選書するのか？

「住民のため」「図書館のため」

…何が足りないか？あるべきものは何か？を考える

## 「図書館員の倫理綱領」

(資料に関する責任)

第5 図書館員は常に**資料を知る**ことにつとめる。

資料のひとつひとつについて知るということは決して容易ではないが、図書館員は**常に資料を知る努力**を怠ってはならない。資料についての十分な知識は、これまでも図書館員に対する最も大きな期待のひとつであった。図書館に対する要求が飛躍的に増大している今日、この期待もいちだんと高まっていることを忘れてはならない。さらに、この知識を前提としてはじめて、潜在要求をふくむすべての要求に対応し、資料の収集・提供活動ができることを自覚すべきである。

→ 図書館員に求められる知識量は増えている

新しい知識分野(情報、法律、医療など)

…ひとりで対応するのは荷が重い。仲間と共有し合おう

## 選書の考え方

### 「価値論」: 資料重視型

価値のある良書を図書館側が主体となって選定するのは当然で、多くの利用者に求められる、一時的な流行のベストセラーを蔵書に加えるのは慎重にするべき」という考え方

### 「要求論(予約・リクエスト)」: 利用者重視型

「利用者の要求に積極的に応えるべき」という考え方  
→ 『市民の図書館』日本図書館協会(1970)

- ・ 貸出中心の図書館
- ・ 予約が多くある本の「複本購入」につながる→出版界からの批判へ

## 選書の方法①

### ①カタログ・リスト選書

- ・ 網羅的に選ぶことが出来る
- ・ 時間や場所の制約が少ない
- ・ 中身がわからない、納品に時間がかかる

→ 間接選書

### ②現物見計らい

### ③出版社等のブックフェア、ブックキャラバン

- ・ 中身を見て選ぶことが出来る
- ・ 納品までの時間が少ない
- ・ 網羅的ではないことがある(テーマ・分野など)

} 直接選書

### ④個別注文(リクエスト)



## 選書の方法②



### カタログ・リスト選書

「週刊新刊全点案内」:TRC図書館流通センターが作成する「書誌情報誌兼選書資料」。

- ・毎週火曜日、約3,500部を発行。
- ・TRCの取引先である公共図書館などで使用されている。
- ・毎週平均約1,100点掲載、約6割にあたる自社在庫図書は、表紙の写真付き。

※TRC図書館流通センターHPより

○「週刊新刊全点案内」の特長のひとつ:「新刊急行ベル」

- ・人気作家の新刊本や図書館での利用が多く見込まれる実用書などを、年間契約して確保してもらえるシステム。分野ごとに細分化してカテゴリー分けされており、必要な分だけ契約しておき、他は必要に応じて選書する、といった使い方が出来る。

○TRCは他にも、「人文書基本図書カタログ」「TRCティーンズ図書カタログ」など、様々な分野の選書カタログを作成しているのので、特定の分野を強化したいときに役立つ

## 選書のポイント（どこを見て選ぶか）

**テーマ:**同じテーマでもレベルや切り口が違う

**構成:**タイトルと内容が一致するか

**著者:**どんな人物か、専門分野は何か

**出版社:**どんな分野が得意か

**装丁:**壊れやすさ(貸出に耐えうるか)

**類書:**すでに類書がどれくらいあるか

**価格:**価格と内容が適切か

**発行:**情報は新しいか、古くても必要な情報か

実際の書架の状況なども見て確認しよう



## カテゴリー別おもな出版社①

### 【文芸書】

講談社、文藝春秋、集英社、新潮社、河出書房新社、KADOKAWA、幻冬舎、小学館、筑摩書房、中央公論新社、東京創元社、早川書房、双葉社、光文社、祥伝社 など

### 【実用書】

池田書店、学研、講談社、主婦の友社、主婦と生活社、西東社、成美堂出版、誠文堂新光社、世界文化社、高橋書店、永岡書店、文化出版局、オレンジページ、エクスナレッジ など

### 【人文書】

明石書店、岩波書店、大月書店、勁草書房、青土社、創元社、筑摩書房、白水社、平凡社、みすず書房、未来社、吉川弘文館、法政大学出版会、東京大学出版会 などの大学出版社

## カテゴリー別おもな出版社②

### 【ビジネス書・法律書】

NTT出版、学陽書房、三修社、青林書院、ダイヤモンド社、中央経済社、東洋経済新報社、日本経済新聞出版社、日本実業出版社、PHP研究所、有斐閣 など

### 【コンピュータ関連書】

インプレス、SBクリエイティブ、技術評論社、秀和システム新社、翔泳社 オーム社 など

### 【児童書】

あかね書房、岩崎書店、偕成社、学研、教育画劇、金の星社、クレヨンハウス、国土社、こくま社、小峰書店、小学館、少年写真新聞社、すずき出版、童心社、農山漁村文化協会、BL出版、福音館書店、フレーベル館、ブロンズ新社、ポプラ社、ほるぷ出版、理論社 など

※下線は「十社」

## 収集が難しい出版物

- 【地方小出版・直販出版社・古書・個人出版 など】
- ・地元紙や、地元情報を発信するSNSなどから情報を得る
  - ・地元に関する内容の個人出版物は郷土資料として重要

### 【官公庁(灰色文献)】

政府文書、政府関係機関、非営利団体等の研究調査報告書や提言、民間団体の作成資料(報告書・意見書など)、企業出版物、テクニカルレポート(研究報告書)など



様々な方面で常にアンテナを張り、情報を集めるようにする  
(1人では大変だが、複数人なら得意・関心のある分野が違うので可能)

## 本に関する情報源①

- 書店の店頭で・・・POP、ビラ、「〇〇フェア」、出版社目録、フリーペーパー
- 新聞・雑誌・・・広告、書評、文化欄、記事、訃報
- 専門誌・・・『本の雑誌』、『文化通信』、『新文化』、『図書通信』、『ダ・ヴィンチ』
- メディア・・・テレビの本の紹介番組、情報バラエティ番組の本紹介コーナー
- Webサイト・・・オンライン書店、出版社、書店のHP、SNS、書評サイト
- 出版社のPR誌・・・岩波書店「図書」、新潮社「波」、集英社「青春と読書」、筑摩書房「ちくま」、みすず書房「みすず」、講談社「本」、朝日新聞出版「一冊の本」、東京大学出版会「UP」など  
有斐閣「書斎の窓」など

このほか、イベントや飲食店・駅などに置いてあるフリーペーパーなどにも  
→ひとりでチェックするのは大変・・・分担して集めてみては？

## 本に関する情報源②

- 「レファレンス協同データベース」  
→ 国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している、レファレンス(調べものの相談)のデータベース
- 「Honya Club」 → 日本出版販売(ニッパン)のサイト
- 「e-hon」 → トーハンのサイト。文学賞の情報が充実している
- 「版元ドットコム」、「WEB本の雑誌」、「Book Bang(ブックバン)」、「ダ・ヴィンチWeb」 → 新聞やPR誌に掲載された書評情報が多い
- 「絵本ナビ」、「子どもの本 on the Web(日本児童図書出版協会)」  
→ 年齢別、テーマ別のおすすめ本や、読み聞かせに使える本などが探せる

・それぞれサイトごとに特色があり、文学賞の情報などの知識も身につく  
・マメにチェックすると「本を選ぶ眼」を養うために役立つ

## 本に関する情報源③

### 「欠本調査」

- 出版社に(その出版社の)自館所蔵一覧を渡して、必要と思われる本や、逆に除架や除籍が必要と思われる本をチェックしてもらうこと。  
→リスト化してもらった後は自館で検討し、発注や除架除籍を進める。  
・その分野に詳しい司書がない場合や、専門的に扱っている出版社=プロの手を借りたいときは、相談することができる
- 例：法律書・・・有斐閣・弘文堂・青林書院など  
理工書・・・技術評論社・オーム社など

良い選書(書架づくり)には、本を見る目を養い、業界に対する幅広い知識が必要  
→積極的に出版社と交流を図り、教えてもらったり意見交換ができる場をもとう

## 出版業界の主な団体

それぞれホームページがあり、様々な情報が発信されている

### 【出版業界4団体】

日本書籍出版協会(書協)	1957年
日本雑誌協会(雑協)	1956年
日本出版取次協会(取協)	1950年
日本書店商業組合連合会(日書連)	1945年

### 【おもな出版業界団体】

教科書協会	1953年
出版粋会	1948年
全国学校図書館協議会(全国SLA)	1950年
日本図書館協会(JLA)	1892年
読書推進運動協議会(読進協)	1959年
日本児童図書出版協会(児童出協)	1953年

## 出版界からの批判

- 「図書館は無料貸本屋」論争
  - ・津野海太郎「市民図書館という理想のゆくえ」(『図書館雑誌』vol. 92, no.5, 1998.5)
  - ・林望「図書館は『無料貸本屋』か」(『文藝春秋』2000年12月号)
- 「貸出増加は出版不況の一因、作家の利益を侵害している」(日本文藝家協会や日本ペンクラブのシンポジウムでの論争)
- 全国図書館大会(2015)で、新潮社の社長から「一部の新刊本について1年間の貸出猶予を求める」お願い
- 全国図書館大会(2017)で、文藝春秋の社長から「図書館での文庫本の貸出をやめてほしい」と表明

## 図書館の貸出が書籍販売を妨害している？

○浅井澄子『書籍販売の経済分析』日本評論社、2019

→公共図書館の貸出が書籍販売に与える影響について分析を行った

- ・「貸出冊数の増加は販売部数に負の影響を与えるが、その影響は非常に小さく、大きな影響を与えるものではない」
- ・「出版関係者から批判的意見が出るのは、図書館の情報公開が不十分なことも要因のひとつ」



- ・出版不況に対しては、図書館側もひとつとではない(痛みを知る)
- ・敵対関係ではなく、読者育成のために協力する必要がある

## 出版点数と販売額／図書館数と貸出冊数

新刊点数・販売額ともに減少 ⇔ 図書館数と貸出冊数は増加傾向

年	新刊点数(点)	推定販売金額(億円)		年	公共図書館数	貸出冊数(千点)
		図書	雑誌			
2014	76,465	7,544	8,520	2014	3,246	695,277
2015	76,445	7,419	7,801	2015	3,261	690,480
2016	75,039	7,370	7,339	2016	3,280	703,517
2017	73,057	7,152	6,548	2017	3,292	691,471
2018	71,661	6,991	5,930	2018	3,296	685,166
2019	71,903	6,723	5,637	2019	3,306	684,215
2020	68,608	6,661	5,576	2020	3,310	653,449
2021	69,052	6,804	5,276	2021	3,315	545,343
2022	66,885	6,497	4,795	2022	3,305	623,939
2023	64,905	6,194	4,418	2023	3,310	632,676
2024	65,322	5,937	4,119	2024	3,322	623,475

『出版指標年報2025』より

『日本の図書館 統計と名簿2024』より

## 図書館市場

年度	合計		小学校 (億円)	中学校 (億円)	高等学校 (億円)	大学 短大 高专 (億円)	公共 図書館 (億円)
	図書 購入額 (億円)	前年比 (%)					
2020	713.2	96.8	91.9	58.0	39.5	275.7	248.1
2021	688.5	96.5	90.9	60.3	34.8	255.8	246.7
2022	698.1	101.4	90.1	59.1	40.0	255.7	253.4
2023	676.4	96.9	88.8	65.3	36.8	233.0	252.4
2024	660.1	97.6	85.5	64.5	37.9	223.6	248.6

日販ストアソリューションチーム『出版物販売額の実態2023、同2024、同2025』より

## 展示という選書

○展示の「目的」とは何か？ → 貸出につなげるため

- ・本の「存在」や「魅力」を知ってもらう
- ・書架ではなかなか結び付かない本を関連付ける

展示もひとつの選書・・・司書の腕の見せどころ

○「見せ方」の工夫 → フェイスアウト(面出し)の効果

○テーマ、切り口の工夫

- ・年間読書カレンダー
  - 読書週間などの行事以外にも、出版業界で行われている読書推進・販促のためのイベントが多数ある
  - 作家の誕生日や命日(文学忌)、「〇〇の日」など



## 除架・除籍のための選書①

○「**除籍基準**」・・・分類ごとに保存年限や除籍を判断するさいの観点が決められている

- ・内容が古い → 「発行から〇年」など・・・分類やテーマにより基準が異なる
- ・利用がない → 一定期間の貸出数を出すなど、客観的に見る
- ・汚破損している → 利用や保存に支障がある場合、修理や買い替えも検討する(可能であれば)

○**閉架書庫**を有効活用する(ただし固定はしない)

→ 開架に置くスペースがないから即除籍は間違った判断につながる

○除架・除籍をすることで書架が生き返り、より活用される

## 除架・除籍のための選書②

○「**入れるよりも難しい**」ことを意識する

- ・司書個人の恣意的な除籍になっていないか？
- ・利用者が納得する説明ができるか？
  - 客観的な材料(統計など)を使用したり、複数の図書館員で判断するなどの必要がある

○「船橋西図書館蔵書破棄事件」(2001)などの教訓



過去の歴史を振り返り、「自館だったらどうするのか？」を考え、図書館員が共通認識をもつことが重要

## さいごに（まとめ）

- 出版界と図書館界は「隣り合わせ」であり「両輪」の関係
- 異なる存在意義をもつがゆえに、それぞれが抱える問題を理解し、ともに共存する方法を探っていくことが必要



新しい本との出会い方を協力して模索していくことが、  
住民の読書活動の支えになる

- そのためにも、司書として常に「本を選ぶ」眼を養うことが大切
- 書店員など、異業種の人の話を聞く機会を持ち、視野を広げよう

## 参考資料

- ・『出版指標年報2025』全国出版協会・出版科学研究所 2025
- ・『出版社の日常用語集 第5版』日本書籍出版協会研修事業委員会／編 日本書籍出版協会 2024
- ・『出版営業入門 第4版』日本書籍出版協会研修事業委員会／編 日本書籍出版協会 2021
- ・『季刊出版指標 2024年夏号』全国出版協会出版科学研究所 2024
- ・『季刊出版指標 2025年秋号』全国出版協会出版科学研究所 2025
- ・『出版物販売額の実態 2023』『同 2024』『同 2025』日販 スタアソリューションチーム
- ・『日本の図書館 統計と名簿 2024』日本図書館協会 2025
- ・『図書館情報学用語辞典 第5版』日本図書館情報学会用語辞典編集委員会 編 丸善出版 2020
- ・『図書館情報資源概論 3訂版』馬場俊明／編著 日本図書館協会 2024
- ・『公共図書館の選書業務における選書ツールの研究』木下朋美／著 樹村房 2022
- ・『書籍市場の経済分析』浅井澄子／著 日本評論社 2019
- ・『事例で学ぶ図書館情報資源概論』吉井潤／著 青弓社 2023
- ・『2028年街から書店が消える日』小島俊一／著 プレジデント社 2024
- ・『本を売る技術』矢部潤子／著 本の雑誌社 2020
- ・『ひとり出版入門』宮後優子／著 よはく舎 2022
- ・『出版流通が歩んだ道』能勢仁・八木壮一・樽見博／共著 出版メディアパル 2025

## 参考ウェブサイト

- ・経済産業省「構造実態調査2020」（2026.2.1参照）  
<https://www.e-stat.go.jp/index.php/dbview?sid=0003450009>
- ・出版科学研究所「出版流通条件」（2026.2.1参照）  
<https://shuppankagaku.com/knowledge/conditions/>
- ・JPO 書店マスタ管理センター「店舗数推移（店舗坪数別推移、新規・閉店推移等）」（2026.2.1参照）  
<https://www.jpoksmaster.jp/Info/documents/top.transition.pdf>
- ・日本出版取次協会「取次概況—沿革と現況」（2026.2.1参照）  
<http://www.torikyo.jp/gaiyo/enkaku.html>
- ・JPIC 出版文化産業振興財団『BOOK MEETS NEXT2024』記者発表会資料（2026.2.1参照）  
<https://www.jpic.or.jp/topics/2024/09/18/133641.html>
- ・内閣府「経済財政運営と改革の基本方針2024」（2026.2.1参照）  
<https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/honebuto/2024/decision0621.html>
- ・文部科学省「図書館・書店等連携実践事例集」（2026.2.1参照）  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shougai/tosh/mext\\_00001.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/tosh/mext_00001.html)
- ・経済産業省「関係者から指摘された書店活性化のための課題(案)」を公表します」（2026.2.1参照）  
<https://www.meti.go.jp/press/2024/10/20241004002/20241004002.html>
- ・e-GOVパブリックコメント「関係者から指摘された書店活性化のための課題」（2026.2.1参照）  
<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/download?seqNo=0000286289>

## 参考ウェブサイト

- ・経済産業省「書店活性化プラン」を公表します」（2026.2.1参照）  
<https://www.meti.go.jp/press/2025/06/20250610004/20250610004.html>
- ・日本図書館協会「書店・図書館等関係者における対話の場」（2026.2.1参照）  
<https://www.jla.or.jp/taiwanoba/>
- ・日本図書館協会「本の未来と読者を考える書店・図書館等による連携協議会」（2026.2.1参照）  
[https://www.jla.or.jp/collaboration\\_with\\_bookstores-2/](https://www.jla.or.jp/collaboration_with_bookstores-2/)
- ・本の甲子園事務局「本の甲子園」※(一社)ホンミライHPのニュースリリースも参照（2026.2.1参照）  
<https://www.honno-koshien.com/>
- ・書店在庫プロジェクト（2026.2.1参照）  
<https://info.openbs.jp/>
- ・町田市立図書館「図書館以外の施設での予約資料受渡しサービス」（2026.2.1参照）  
<https://www.library-machida.tokyo.jp/guide/center/>
- ・TRC図書館流通センター「図書館ツール、選書と物流 人と資料をつなぐために」（2026.2.1参照）  
<https://www.trc.co.jp/solution/logistics.html>